

あなたのご家族（兄弟・姉妹・父母・祖父母）に八中の卒業生がいたら見せて下さい。

この「同窓会だより」は、アクト地区（10町内）の自治会様のご協力により、5号（11月号）より、この倍の大きさのA3サイズのポスターとなって、町内公民館に掲示されることとなりました。

公民館へ行かれる若い人から年配者までの、同窓生に見て戴ける機会になればと思います。スマホやパソコンで「浜松市立八幡中学校」でホームページを検索すれば「同窓会だより」の処で見られますが、公民館でも見られることを、あなたの周りの同窓生にもお伝えください。

変わる社会（新たな「絆」とは・・・）

元来「絆」は、周りの人間関係が長い間に培われて出来るものです。ですから、「絆」などと言わなくても誰でもあるものとしていたのです。しかし、前回お話ししたような「1人一世帯」が増えて、更に「隣は何をする人ぞ」状態では、とても絆は出来ません。

そんな傾向になってきた時に、神戸大震災が起きました。亡くなった人や安否の分からない人など多数出ました。そこに住んでいる事が分かっている家族や関係者は、現地に飛んで安否確認や食料援助などをしました。ところががそれも分からず、隣が誰だか分からない現地の住人からは、情報は得られないという異常事態が発生しました。そこでクローズアップされたのが、ボランティアの存在でした。

このボランティアの人々は、自分と直接関係ない人々に、様々な救援や支援の手を差し伸べました。そしてこのボランティアと被災者の間では、復興に及ぶまでの関係も深くなり、今までとは違う人間関係が生まれました。それは自然発生的に培われた「絆」とは違う、災害援助を背景に出来た人間関係を基にした「絆」でした。結果として、人々の救いになっていることは見逃せません。

そしてこの「絆」は、その後の東北大震災や各地で起こっている水害などに於いても同様であり、いわば「災害型の絆」といっても過言ではない、新たな「絆」の誕生となりました。

「学は一生」の碑

本校の用務員である杉原一孝さんは、1963年（昭和38年）3月に本校を卒業した先輩です。杉原さんが今も大切にしている卒業アルバムには、完成したばかりの「学は一生」の碑（写真）が載っています。碑は、2020年6月末まで旧校舎の南に58年間立っていましたが、新校舎の開校に伴い現在地に移設されました。

船越小の創立は1955年（昭和30年）です。校地の西半分は11軒の民家の移転により、東半分は八柱神社の境内を借りて確保されました。御殿屋台を新調する為に積み立てられた資金が提供され、奉仕作業を重ね、地域の熱い思いによって、浜松初の鉄筋校舎（旧北校舎）で開校しました。南校舎・プールなどが続きました。

そして、1962年（昭和37年）、松井石材店から仙台石の寄付を受けて「学は一生」の碑が完成しました。2021年、「学は一生」の精神を船越小は受け継ぎます。授業で学んだことは一生役に立ち、卒業しても学びは一生続く、一生役に立つ力をつけるために、授業を楽しくしたい。「楽しい授業があったという記憶」は、一生学び続ける上で、必ず役立ちます。

船越小 校長 澤田 正樹



正門からのプロムナードに移設された碑

「同窓会だより」掲載記事募集

- ①クラスOB会・部活OB会などの写真とお便り
- ②私の会社紹介：氏名・何回生・写真・お便り
- ③私のお店紹介：氏名・何回生・写真・お便り
- ④同窓会への意見や要望

八幡中学校同窓会事務局 代表 白井 鉄男
連絡先：〒430-0928

浜松市中区板屋町612-402
TEL/FAX：(053) 489-6391
ironman29@hotmail.co.jp

八幡中学のホームページに「同窓会だより」のコーナーがあり、スマホやパソコンで見られます。
皆様の友人や同級生にも教えてあげて下さい。この「同窓会だより」は毎月発行します。